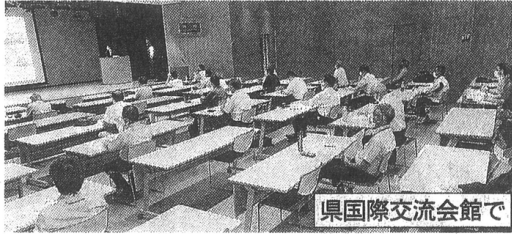


毎日の当たり前が高品質を提供

福井県コンクリート診断士会が技術交流会開く



県国際交流会館で

会員6人が日々の実践を報告

出川 高校球児に負けない熱心さ強調 令和4年度

福井県コンクリート診断士会（山川博樹会長）は22日、令和4年度の技術交流会を開催した。福井市宝永3丁目の県国際交流会館で

会員によるコンクリート診断事例の発表で、6人が登壇した。約50人が聴講。山川会長が冒頭挨拶し、会員の熱心な姿勢を、甲子園で白球を追う高校球児に重ねた。

発表1人目の石隅久裕

氏は、JISマーク表示認定製品を製造する工場として、スランプ試験や空気量試験などを毎日実施。「毎日の当たり前が大切で、より良い生コンクリートを提供していくことが、各地域におけるコ

ンクリート構造物の長寿命化につながる」と強調。中村正治氏は、下水管渠の現状として、インフラの老朽化に伴い、道路陥没事故や水管橋老朽化破損などが発生。国土交通省がi-Constructionにおける下水道版をi-Gridと定義し、ICTの活用で質や作業効率の見える化を実現。下水道事業の持続と進化を実践する取り組みを紹介した。

米倉宣行氏は、2009年8月11日に駿河湾沖で発生したM6.5の地震により、架設直後のPC桁が被災した自らの体験を話した。主桁の転倒防止対策が有効に機能し、PC桁の転倒や落下もなく安堵したこと。協力を得たコンクリート診断士の知識に感謝しているなどと率直に話した。瀨川博愛氏は、橋梁桁端部の補修事例を報告。

加茂浩司氏は、塩害対策に効果を発揮するクロガードを紹介した。コンクリート1平方メートル20〜40kgの少量で高い耐塩性を有する。ミキサへ直接投入可能（サイロなど追加の設備不要、強度発現性に優れるなど）と強調した。

【発表者とテーマ】



福井宇部生コンクリート石隅 久裕氏
診断されるモノづくり（材料編）～日常管理からつながる技術の応用



中村正
中村 正治氏
下水管渠の現状・調査事例と最新の調査技術紹介



日本ピーエス
米倉 宣行氏
地震により被災したPC桁の損傷と復帰後対応



京福コンサルタント
瀨川 博愛氏
支承取替事例および伸縮装置漏水対策事例



カモコン
加茂 浩司氏
塩害対策に効果を発揮するクロガード

■川口構造設計事務所

川口 英幸氏
鋼橋補修の課題点と解決案

川口構造設計事務所の川口英幸氏は、鋼橋補修の課題点と解決策を示した。高力ボルトや塗装塗替え、当て板のボルト、ブラケットの溶接などを紹介している。